

笑顔が一番

令和7年 11月
今江こども園
二木 恵子

すっかり秋も深まりました。短い秋が終わり早くも冬の到来を感じる今日この頃ですね。

園では、早くも発表会の練習が始まり、あちこちからリズムの音や、歌声、演奏の練習の音が聞こえ、園の中は子ども達のエネルギーがあふれています。保護者の皆様も発表会をどうぞ楽しみにお待ちください。



さて、笑顔が一番では、明橋 大二さんの「子育てハッピーアドバイス」をお伝えしています。なかなか思い通りにいかない子育てです。それに自分自身の疲れも加わると、ついつい子どもを叱ってばかりということがありますね。

叱ることは悪いことではありませんが、子どもを叱る時に気をつけたいことがあります。

叱るときの、大切なポイントは3つ

① 全人格を否定するような言い方をしない

「おまえは、なんてダメなやつなんだ」

おまえは、〇〇だという言葉は、相手の全人格について言う言葉ですから、使わない。

「〇〇するのは、よくない」という言い方をする。



② 何を叱られているのか、わかる叱り方をする

とにかく親は怒っている。けれど何を怒っているのか分からない、ということがあります。〇〇するのはよくないでしょう、と何がいけないのかを、ちゃんと伝える。

③ 今度、叱られないためには、どうしたらいいかを伝える

叱られると、敏感な子の場合、特に、絶望的な気持ちになり、すてばちになることもある。

「今度からは、欲しい物があるときは、ちゃんと言葉で言ったらいいのよ」

「腹が立ったときは、いきなり手を出さずに、まず言ってくる。そうしたら、ちゃんと話を聞くから」

など分かりやすく対処のしかたときちんと教える。

サンドイッチ法 子どもをやる気にさせる注意のしかた

子どもに注意するときは、「サンドイッチ法」で、話をすると伝わりやすいです。子どもの悪い点を注意するときに、その前後を、子どもの長所ではさむ言い方です。

たとえば、男の子がとなりの女の子をたたいて泣かせてしまったことを注意する場合

まず子どもを認める

「いつも、花の水やりとかいろいろやってくれてるね。
ありがとう。」

次に注意する

「ところで、さっきはどうして女の子をたたいたりした
の。そういうことはしちゃだめだよ」

注意したあとに、もう一度認める

「あなたみたいに、いつも、がんばっている子があんなことするのは、何かわけがあったん
じゃないの。ちょっと言ってごらん」



こういう言い方をすると、注意はされているのですが、逆にほめられた部分もあるので、
わりとずっと注意が入っていきます。
これを逆にするとどうなるでしょう。

まず注意する

「またか。いつもこんなこと、やっちゃだめと言っているでし
ょう。何度言ったら分かるの！」

次に子どもを認める

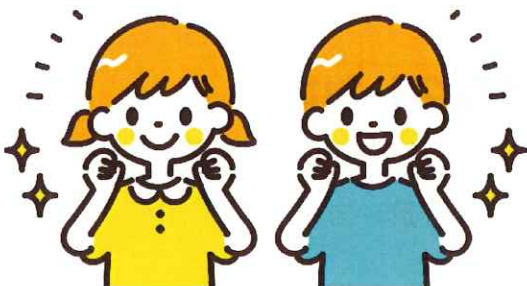
ちょっと言い過ぎたかな。と思って
「だけど、いつも花のみずやりをしてくれているね。そういうと
ころは、いいよ」

認めた後に、もう一度注意する

でも、あまやかしたらだめだ！と思って
「だけど、またこんなことやったら、全部だいなしになるよ！」



これでは、子どもは、悪い点を注意されたというより、自分の存在自体がいけな
いんだ、というふうに思ってしまう。大人は悪いところだけ改めてほしいと
言っているつもりでも、自信のない子は、こういう注意のされ方をすると、存在
自体を否定されたと、とってしまいます。



子どもは失敗をします。注意する時は「サンドイッチ法」
ほめ認める→注意→ほめ認める
で、お願いします。大人でも、この方法がいいなあと思
いました。